

社員ののぞき穴



WCV という車いすのまま乗り込める電動バイクを担当している白川です。

このWCVという乗り物なのですが、見た目はすごく速そうに見えてカッコいいのですが、最高時速が時速40kmに満たず、実際にご購入いただいた方からも「もっとスピードを出したい」との声をいただいていた。そこで、その声に応え、見た目に合うスピードをと思い、改造に着手、およそ1年半の試行錯誤を経て、やっと時速60kmまで出せるようになりました。

車いすを使用していて、興味のある方がいらっしゃれば、いつでも試乗もできるので、是非試乗にいらしてください。改造前のWCVと乗り比べも出来ますので、WCV担当の白川までご連絡ください。

臨床実習生がきたーっ！！

今年も臨床実習生の季節がやってきました。弊社にも今年は二人が、5月～6月、6月～7月と入れ替わりできており、臨床実習真っ最中でございます。二人から皆様へのごあいさつをいただきましたので、紹介いたします。

はじめまして。実習生の齋藤です。

北海道科学大学から5月12日～6月20日まで6週間の予定でP.O. ラボで勉強させていただいています。

今号をお持ちの方の中には、もしかするとお会いできた方もいらっしゃるかもしれませんが、お目にかかれなかった方がほとんどかと思えます。

この誌が皆様のお手元に届く頃には、すでに北海道に戻ってしまっていると思いますが、今後もし機会がありましたら、よろしくお願いします。



はじめまして、実習生の小田です。新潟医療福祉大学から来ました。実習期間は7月25日までと短い期間ですが、お目にかかる機会がありましたらどうぞよろしくお願いたします。

P.O. ラボでは少しでも多くの経験を積みたいと思っています。患者さんに親しみをもってもらえる義肢装具士を目指して、日々がんばってまいります。



編集後記

4年に一度のサッカーワールドカップ。寝不足街道をひた走る、岡です。世界のサッカーを観ていると日本のサッカーはまだ発展途上。将来に期待して応援しようと思えます。

私たちも皆様のステキな将来の一助となるようがんばるぞー！！



誌日誌について

誌日誌は弊社製品をご購入いただいた皆様に、ご購入後一年半の間、無料でお送りしているものです。

一年半を越えて継続をお求めの方には引き続き無料にてお送りしておりますが継続の申込をお願いしております。

恐れ入りますが電話0774-62-9566（月曜から金曜の朝9時から17時まで）にご連絡いただけますようお願い申し上げます。

なお、誌日誌のバックナンバーは株式会社P.O. ラボ facebook ページにてダウンロードしていただけます。



株式会社 P.O. ラボ
〒610-0342
京都府京田辺市松井山川 1-7
電話 0774-62-9566
FAX 0774-62-9667
e-mail : info@po-labo.com
http://www.po-labo.com

料金後納
郵便



★ 杖を使う方には知っておいてほしいこと
杖に付けておきたいあんなもの

★ 生まれ変わるか！？ 車いすで乗るバイク
"WCV"

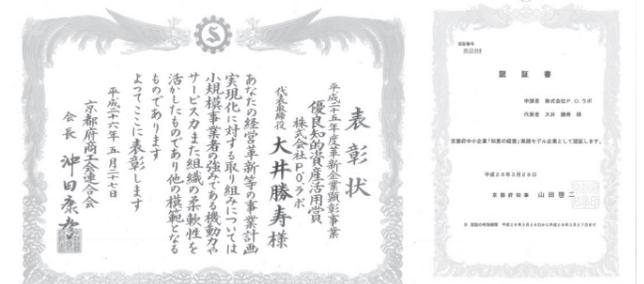
★ 若いってステキ ♥ 臨床実習生

【 ごあいさつ 】

梅雨も後半に入り本格的になりつつある今日この頃ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？ここ最近で大きなトピックスといえば「知恵の経営」の企業として京都府知事の認証を受けることができたことと、京都府商工会連合会から「優良知的資産活用賞」の表彰を受けることができたことです。これに満足せず日々精進して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。☺



メニュー お知らせ
特集：杖・ステッキ
社員ののぞき穴
臨床実習生がきたーっ！！
編集後記



【特集：杖・ステッキ】

知って得する!!

杖の歴史

杖の歴史は非常に古く、神話にも登場します。ギリシャ神話にあるアスクレピオスという神は、医術の神で常に杖を持ち、その杖には1匹の蛇が絡まっていた。その杖は蛇杖と呼ばれ、今では医の象徴として、日本医師会のシンボルマークになっています。

杖は、古くから、王様や部族の首長、祈祷師などの権威の象徴として用いられてきました。日本では古墳から出土することもあり、古事記では「御杖（みつえ）」と記されています。"み"とは神事に関わるものにつけられ、神聖なものを示しており、王の権威のシンボルとして使用されていたようです。

ヨーロッパでは17世紀から20世紀にかけて、杖（ステッキ）は装飾品の一つとして扱われ、社交場では重要なアクセサリでした。日本でも明治になると紳士のアクセサリとして流行し、昭和初期まで若者もステッキを好んで持ち歩いたようです。

現在、欧米諸国では、ステッキをアクセサリとして用いることも多いですが、日本では、歩行補助用として用いることがほとんどです。

老人の象徴のように扱われる杖ですが、歴史の上では、神の持ち物であり、権威の象徴であり、ファッションの一つであったりと、使い道は様々だったんですね。



杖の持ち方・握り方

杖をどちらの手で持つかで、体を支える支持面積は大きく変わります。下図の足と杖で作られる面の大きさは、大きいほど体が安定しやすいことを表します。

ですから、杖をつく時は、悪い方の足と反対の手に持つことで、悪い方の足をついた時の面積を広くして、バランスを良くし、不要な負担を減らすようにするわけです。

	良い側に杖をついたとき	悪い側に杖をついたとき
良い足が地面から離れたとき		
両足が地面に付いているとき		



杖の高さ

杖を購入される時には、多くのお店が杖の高さも合わせてもらえますが、家にある杖をちょっと使おうと思った時などに、高さの目安を知っておくと便利です。

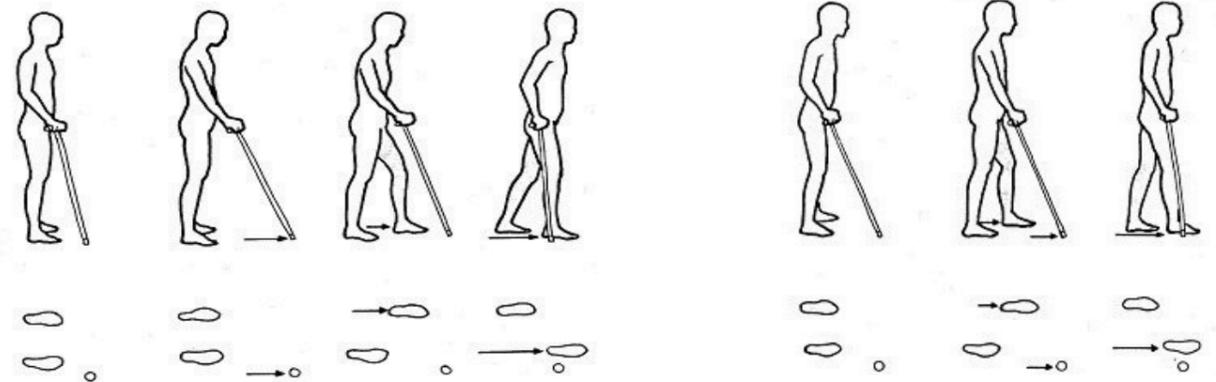
杖の高さは、大転子という腰骨のやや下に触れる骨の出っ張りなんですけど、まあ、腕を垂らしたときの手首^{だいてんし}くらいの高さと思ってください。杖を持ったときに、肘が軽く曲がり（肘の角度にして、だいたい30度）、なおかつ肩が突っ張らない程度であれば良いと思います。



杖を使って歩くなら

3点歩行

2点歩行



上図のように、不安定感が強くゆっくりでも安全に歩くなら、3点歩行（左図）という歩き方。杖を使ってスタスタ歩くなら、2点歩行（右図）という歩き方。2点歩行についていえば、普段歩く時は手と足は左右交互に出るので、手を振り出した時に杖をつけば良いわけです。



杖の注意点

杖の先についている先ゴムは、使っているとだんだんとちびてきて、滑りやすくなり、思わぬ大事故になることも。たまにチェックをして、先ゴムの吸盤が磨り減っていたら、交換してください。購入されたお店か、もちろん弊社でも承ります。

